

第 53 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【全体会】

日時：2025年3月5日（水）

全体会・部会①・部会②・部会③ 10:00～12:00（予定）

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川ホール 5A

次 第

【全体会】

(1)開会

(2)5・6街区及び隣接地区の高輪築堤跡の遺構と文化財的価値について

【資料1】

(3)その他

(4)閉会

※なお、資料のなかで個人に関する情報や事業の関係等で非公開である情報については、一部表現を修正しています。その他、写真・図について一部訂正や出典等の加筆・修正をしています。

2025. 3. 5

5・6 街区及び隣接地区の高輪築堤跡の遺構と文化財的価値について(3)

本文書は、第 38 回高輪築堤調査・保存等検討委員会(2023. 12. 6)において提示した「5・6 街区及び隣接地区の高輪築堤跡の遺構と文化財的価値について(2)」を、その後に得られた新しい知見によって改訂したものである。

なお、本文書は、これまでの発掘調査、確認調査、文献・地図の調査等の知見に基づき、現段階での委員の見解をとりまとめたものであり、今後新たな知見によって改訂されるものである。

1. 高輪築堤跡の遺構について

- ・これまでの試掘調査、確認調査、物流荷捌き部、物流仮斜路部、環状 4 号線、京急連立事業用地の発掘調査等の状況から、以下のような知見を得た。
- ・明治 5 年(1872)開業期海側(東側)石垣は現表土直下で確認されていることから、1～4 街区と同等かより高い位置で遺存していると考えられる。
- ・1～4 街区と同等、一部はそれ以上に遺構の遺存状態が良いと考えられる。
- ・5・6 街区の石垣・土手、盛土などの構造は 1～4 街区との共通性はあるが、異なる点が認められ、高輪築堤跡の構造の多様性を示す新たな知見が得られている。
- ・4 街区と同様に長い区間に及ぶ海上築堤の鉄道らしい「連続性」を有するものと考えられる。
- ・明治 9 年(1876)複線化期と考えられる築堤幅の盛土が確認された。
- ・高輪築堤跡は南行するに従い海側(東側)に振れ、幅を広げながら第 8 橋梁北横仕切堤に接続すると考えられる。
- ・6 街区の海側石垣に設置された張り出し遺構が検出された。
- ・第 8 橋梁及びそれにともなう南北横仕切堤が含まれる範囲であり、南北横仕切堤の遺構が確認されている。
- ・新橋・横浜間の鉄道において重要な位置を占める旧品川停車場につながる部分にいたり、旧品川停車場の盛土・整地層が確認されている。

2. 文化財的価値について

- ・高輪築堤跡の遺構は日本の近代化土木遺産を代表する遺跡として、わが国の近代史、鉄道史、土木史、産業史上重要な位置を占めている。また、東京や高輪の地域史を考える上でも貴重な遺跡である。
- ・国史跡「旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡」に指定された、2街区の築堤部及び3街区の第7橋梁橋台部・築堤部と一連のものである。
- ・5・6街区及び隣接地区の高輪築堤跡は、1～4街区の高輪築堤跡と同等の文化財的価値を有するとともに、高輪築堤跡の構造の多様性を示す貴重な遺構であると考えられる。また、第8橋梁及びそれにともなう南北横仕切堤が含まれ、旧品川停車場につながる部分にあたる点も重要である。
- ・6街区の海側石垣に設置された張り出し遺構は、4街区で検出された信号機跡と類似しており、わが国最初期の信号機跡と推定される貴重な遺構である。

3. 保護措置について

- ・高輪築堤調査・保存等検討委員会は、「高輪築堤跡の保存の方針についての見解」(2021.4.21)において、「5・6街区については築堤の『現地保存』を考慮した開発計画を策定することを要望」している。
- ・これを受けて、5・6街区の保護措置については、1～4街区と同様に、計画の見直しを含めた現地保存を検討することを出発点とし、まちづくりと文化財のあり方について協議を開始することにしたい。

会長声明

高輪築堤跡の全面保存と活用を強く求めます

1872年（明治5）、わが国初の鉄道が新橋 - 横浜間で開業されました。その時、海上に鉄道線路を敷設するために築かれた高輪築堤跡が、驚くほど良好な状態で残されていることが、品川開発プロジェクトに伴う発掘調査で明らかになりました。このきわめて重要な遺構について、日本考古学協会は、2021年1月に保存要望書を提出して以降、5回にわたって会長声明とコメントを發出し、さらに関連学会と共同で要望書を提出し、全面保存と活用を求めてまいりました。

しかし、残念ながら第Ⅰ期工事エリアである1街区から4街区は、築堤の一部のみが現地保存及び移築保存されるにとどまり、発見された築堤跡の多くの部分が記録保存のみで破壊されました。

昨年、第Ⅱ期工事エリアである5・6街区の確認調査が港区教育委員会によって実施され、12月にその成果が現地で公開されました。調査区からは、開業期の海側石垣をはじめとする築堤跡が、非常に良好な状態で残存しており、前回と同様に信号機跡と思われる石垣の張り出しも確認されました。

このように5・6街区も、1街区から4街区と同じように、築堤跡がほぼ完全な形で残っている可能性がきわめて高いことは明らかです。当時の我が国の高い技術力と、それに基づく日本近代化の過程が分かる貴重な遺構が残っていることを無視してはなりません。

この5・6街区の今後については、いまだ計画が明らかにされておられません。日本近代化の歴史・文化遺産である高輪築堤跡を現地に保存し、まちづくりに活かしていくことを望みます。

このまま開発を進め、記録保存するだけで、貴重な遺構を破壊することは簡単です。しかし、これから50年後、100・200年後を見据えたまちづくりを行うのであれば、二つとない歴史・文化遺産と調和する再開発を進めていくことが必要ではないでしょうか。

よって、品川開発プロジェクト5・6街区の高輪築堤跡の全面保存と活用を強く求めます。

2025年2月7日

一般社団法人日本考古学協会

会長 石川 日出志